

令和2年度 原子力科学研究所防災訓練における課題対応について

1. はじめに

令和3年3月26日に実施した原子力科学研究所防災訓練について、訓練結果を踏まえて課題を抽出し、対策の検討を行った。

【抽出した課題等】

No	抽出した課題	区分	対策	抽出元
1	通報様式へのSE、GEに至る経緯、EALの判断に係る記載、対応措置の予定・実績等の記載について、どの欄に記載すべきかが十分に理解されていない。	通報連絡	・通報様式の記載例を見直し、それぞれの欄について、具体的な記載事項を例示する。	NRA 助言
2	ERC プラント班に対する円滑な情報提供という観点から、リエゾンの役割及び役割分担に改善の余地がある。	リエゾン	・リエゾンの役割及び役割分担を見直し、マニュアルへ反映する。	NRA 助言
—	その他	—	—	—

2. 検討

<No. 1>

【問題点】

通報様式に記入した内容が様式の趣旨に沿ってない箇所があった。

【課題】

通報様式へのSE、GEに至る経緯、EALの判断に係る記載、対応措置の予定・実績等の記載について、それぞれの欄に何を記載すべきかが十分に理解されていない。

【原因】

通報様式の記載例について、それぞれの欄に何を記載すべきかが具体的に例示されていなかった。

【対策】

通報様式の記載例を見直し、それぞれの欄について、具体的な記載事項を例示する。

<No. 2>

【問題点】

リエゾン対応で以下のような場面があった。

- ・ERCプラント班へ配付した資料に一部誤記や重複した内容が含まれていた。
- ・業務量にアンバランスが生じ、一部リエゾンの負荷が大きくなった。

【課題】

ERCプラント班に対する円滑な情報提供という観点から、リエゾンの役割及び役割分担に改善の余地がある。

【原因】

- ①リエゾン側で配布資料を選別する運用になっていなかったため、即応センターから送付された資料をそのまま配布してしまった。
- ②ERCプラント班のフロント側には発災施設に詳しいリエゾンを配置するようにしており、複数施設で発災した場合はそれぞれの施設に対応したリエゾンを配置する運用であったため、残ったリエゾンで資料の配布を対応することとなり負荷が大きくなった。

【対策】

- ①即応センターからリエゾンへ送付した資料については、リエゾンがERCプラント班へ配布する前に内容を確認し、誤記がある場合は訂正するとともに、重複や内容の古い資料は配布しないことをマニュアルに追加する。
- ②複数施設発災時に複数のリエゾンをERCプラント班のフロント側へ配置させている状況においては、事象の重大性や進展状況を考慮した上で優先度の低い施設担当のリエゾンを資料配布のサポートに回すことで、役割分担を柔軟にできるようマニュアルに追加する。

3. 「その他」に関する対策

(原子力科学研究所)

No.	課題区分	課題	原因	対策	抽出元
1	ホットライン	情報班のホットライン対応について、現場からホットライン情報を情報統括者にタイムリーに伝達する手段を検討する必要がある。	TV 会議システムでの情報共有が絶えず間なく継続されている状況では、割り込んで発話することが難しい。	情報班からのホットライン情報の提供については、副情報統括者を通じて情報統括者及び原子力防災管理者へ共有するとともに、時系列作成担当にも情報を提供し、時系列の中にホットライン情報を追記することで、現地対策本部内に共有することとする。	モニタコメント
2	情報収集	必要な情報を漏れなく確認できるよう、情報統括者及び副統括者はチェックリストを活用すべきと考える。原科研では机上に「対策会議の初動連絡チェックリスト」が準備されていたことからこれを活用することが望ましい。	事象発生時の初動段階での情報収集については、火災及び負傷者事故用のチェックリストは整備されているが、原災法事象に対するものは整備されていない。	原災法事象に対応したチェックリストを整備し、現地対策本部及び事故現場指揮所にて共有し、活用することとする。	モニタコメント
3	資料配布	情報班からの「現地対策本部受信票」は、コピーされ、各担当・各班に配布されていた。各班では文書	各配布場所には、トレイが一つしかなく、複数施設発災の場合であっても施設ごとに区分して	各配布箇所に文書トレイを発災施設ごとに用意し、区分して配布することとする。	モニタコメント

		<p>トレイに文書を蓄積していったが、すぐに参照できる状況にはなく、文書が散乱しているような状態も見受けられた。</p> <p>特に複数施設で事故が発生した際には情報の混乱を防ぐため、文書トレイの複数化や綴じ込みファイルの準備についても検討が必要である。</p>	<p>配布しようとする意識がなかった。</p>		
--	--	---	-------------------------	--	--

(機構本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策	抽出元
1	ERC 対応	複数施設同時発災時において、一方の施設の応急措置の実施状況について、定期的な説明が不足した。	事象の重大性や進展状況を考慮した上で優先度が低いと判断した施設の情報提供方法について明確なルールがなかった。	優先度が低いと判断した施設においても、定期的に状況報告を実施することをマニュアルに定める。	NRA 助言
2	ERC 対応	SE/GE 事象同時発災における国との認定会議において、対応者が SE 事象のみの内容と受け取れかねない発話をした。	SE/GE 事象とも条件が同一であったため、語順のままに SE だけを説明した。	SE/GE 事象同時発生の場合には、GE に達したこと伝達する方が重要であるため、GE であることを優先して説明するようマニュアルに定める。	NRA 助言
3	様式	<p><更なる改善></p> <p>連絡メモの右上の欄に発生時刻又は確認時刻を記載する運用となっているが、事象の発生時刻については運用上、内容欄に記載している場面が多々あり、連絡メモの右上の欄が空欄となることが多々あった。</p>		連絡メモの右上には確認時刻を記載することとし、発生時刻は内容欄に記載するように様式を見直す。	NRA 助言
4	運営	誰が本部長なのか一目で判断しづらかった。	本部長、副本部長の表記はされていたが同じ色のビブスを装着していたため。	本部長には腕章を付けるなど工夫することを検討する。	モニタコメント

以上